

民間バス事業者からはこんな声も

今日、札幌市では社会経済状況の変化により、敬老パス制度の見直しについて議論されているため、民間事業者として意見を申し上げます。

高齢者交通費助成制度については、道内を含め全国的にパス方式と回数券方式があります。札幌市はパス方式ですが、回数券方式と異なり、利用者数に多少の誤差があっても契約した一定額が市から支払われる方式です。

当社は年2回、一定期間に敬老パスの利用実態を調査し年間の利用者数を割り出していますが、最近の調査では市から支払われる額の約4倍の利用実態があるという結果が出ており、もはや一民間事業者としての負担の限界を超えています。輸送サービスの提供に対する当然の対価として、利用実態に見合った額を市にご負担していただきたいし、それがかなわない場合には、回数券方式などへの制度の見直しを望みます。

ご意見を募集します

ご意見は、はがき、封書、ファクス、Eメール、インターネットで受け付けます。住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話（ファクス）番号を添えてお寄せください。寄せられたご意見を本誌などに掲載させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください（誌上は匿名も可。匿名希望の場合はその旨を明記）。本誌に掲載させていただいた方には、共通ウィズユーザーカードを差し上げます。

〒060-8611

中央区北1西2 市役所高齢福祉課

FAX 218-5179

Eメールアドレス koreifukushi@city.sapporo.jp

ネットアンケート（11月11日（火）～12月10日（水））

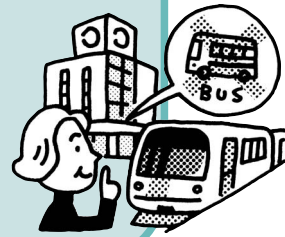
http://www.city.sapporo.jp/somu/shimin_nokoe/enquete/no12enq.htm

アンケートを実施します

敬老パスの今後のあり方を検討するため、5千人の市民の方にアンケートを行います。無作為で選んだ20歳以上の方を対象に、幅広い年齢層からの意見を集めます。11月の中旬に郵送しますので、ご協力をお願いします。

利用する交通機関を限定する

見直して
存続



九月からパスをもらいましたが、私の利用する交通機関は決まっており、地下鉄しか利用したことはありません。そこで、バスのみ、地下鉄のみというように希望の交通機関だけを利用できるパスにする。他の交通機関を利用するときは半額を支払うような制度はどうでしょうか。

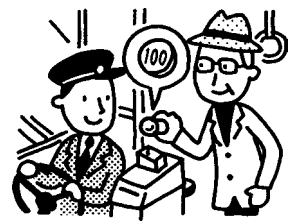
（東区・七十年代 男性）

抜本的な制度改革を望む

毎年、三十五億円という多くの税金を使っているが、負担するのは私たちの世代であり、このままだければ破たんするのは明らかである。ウィズユーザーカードを配り上限を設ける、毎回百円を支払うなど抜本的な改革が必要だと思う。

見直して
存続

（北区・四十年代 男性）



生活が苦しい人のみに交付

見直して
存続

今の高齢者は貯蓄のある人が多いので、無料のパスはいらないのではないのでしょうか。でも、生活が苦しい人に対しては制度を継続するなど検討すべきです。

（白石区・六十年代 男性）

他の施策に予算を

廃止

高齢者は公共交通の乗り降りなどが大変なため、現実にはタクシーや子供の車などで移動する方が多いと思う。この制度をやめて、他の高齢施策に使ったほうがよい。

（北区・七十年代 女性）

「存続」を前提に議論を進めます

ご覧いただいたように、敬老パスに関するさまざまな意見が寄せられています。社会経済状況が大きく変化している中、現在の制度をそのまま存続していくにはさまざまな課題があります。そこで、今後の敬老パス制度はどのような方がよいのか、ぜひ、皆さんのご意見をお寄せください。お寄せいただいたご意見などを基に、本誌では敬老パスについての企画を再度予定しています。多くのご意見をお待ちしています。